

# 「標準的なバス情報フォーマット」概要

## 背景

- 「交通政策基本計画」および「明日の日本を支える観光ビジョン」において、中小のバス事業者も含めた経路検索の実現に向けた取り組みが強く要請された。
- 国土交通省に「バス情報の効率的な収集・共有に向けた検討会」を設置（2016年12月）、経路検索に資する交通に関する情報の受け渡しを効率的に行うための「標準的なバス情報フォーマット」を定めた。

## 静的バス情報フォーマット（GTFS-JP）

- 停留所、路線、便、時刻表、運賃等、一般路線バスの基本的な案内に必要な項目
- 北米や欧州で広く普及するフォーマット（GTFS）と互換性を確保
- 2017年3月 初版、2019年3月 第2版
- 2021年7月 第3版を策定

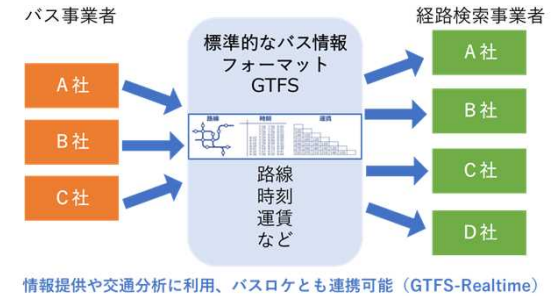
## 動的バス情報フォーマット（GTFSリアルタイム）

- 遅延、到着予測、車両位置、運行情報等のバスロケーションの表示に必要な動的情報
- 2019年3月 初版

## 1 小規模バス事業者やコミュニティバスも経路検索サービス等に掲載される

- これまで経路検索サービスに載りづらかったバスについても、より多くの経路検索サービスに掲載されやすくなる。

### 標準的なバス情報フォーマットによる情報提供のイメージ



情報提供や交通分析に利用、バスロケとも連携可能 (GTFS-Realtime)

## 2 バスロケ情報や運行情報が経路検索に掲載される

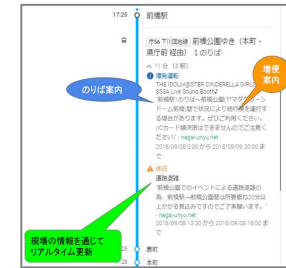
- 大手事業者を含めても現状ごく限定的な、経路検索サービスを通じたリアルタイムのバスロケ情報を簡易に行えるようになる。
- 災害時やイベント開催中の、運休、迂回、増発等の情報を利用者に伝えることが可能。

### 台風時の運休予告 (宇野自動車)



Sujiya Systems Twitter投稿より

### イベント時の続行便・混雑案内 (永井運輸)



永井運輸「GTFSデータの取組みと災害時への対応」より

## 3 多様な活用ができる (ワンソース・マルチユース)

- 経路検索以外の情報提供 (デジタルサイネージ等) や交通分析も可能。

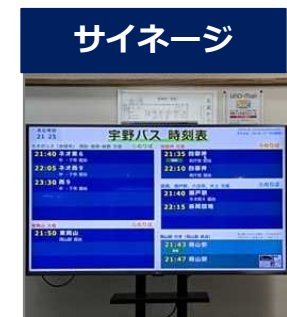
## 4 事業者自身が案内の正確さを向上できる

- 特別ダイヤや運休を反映し、バス停情報もより正確に多言語で整備できる。

## 5 業務の効率化ができる

- 経路検索事業者等へのデータ提供の一本化や、業務のIT化に繋がる。

### サイネージ



Sujiya Systems 「その看板」